

## 6 各学科の教員配置数に関する調査

全国高等学校農場協会振興局

### 1. 目的

今回のアンケート調査は、農業関係学科の教員配置の実態を把握するために実施したものである。農業教員は、授業や分掌などの職務を行うほか、外部との連携、さらに、広大な農場の管理、実験実習施設・設備等の管理を行っている。教員の職務内容は多様化するとともに担うべき債務も大きくなってきている。

このような状況を改善し、充実した農業教育が実践するためには、農業科教員の職務を軽減することが第一であり、そのためにも教員の適正な配置が必要である。

今回も同様のアンケートを行い、より詳しい状況を把握することを目的とした。

### 2. 対象

農業関係学科を設置している高等学校（総合学科を含む）

回答数 306校 802学科

### 3. 結果

#### (1) 教員配置数とクラス数について

今回の調査では、学科別の教職員配置数の平均値は、表の通りとなった。

表 1. 学科種別教職員配置数およびクラス数（全国平均）

学科別集計	種別 学科数	正規職員			非正規職員			クラス数
		教諭	実習助手	技術職員	講師	農務員	実習助手	
農業・園芸系	321	5.21	3.24	0.38	0.85	0.84	0.04	3.10
環境系	133	4.17	1.51	0.16	0.62	0.21	0.03	2.73
食品系	147	3.66	1.56	0.10	0.69	0.13	0.01	2.56
生活系	55	3.09	1.04	0.15	0.45	0.11	0.04	2.31
その他	74	3.89	1.99	0.19	0.81	0.38	0.03	2.79
総合学科	72	4.56	2.07	0.51	0.52	0.61	0.00	4.39

注1：生産系と食品系などが組み合わさった学科やコースは、1つずつの学科として計上

注2：選択制の学科は、HPなどを調査し、概数で計上

この結果をまとめると以下ようになる。

①農業・園芸系は教諭 5.21 名、実習助手 3.24 名であり、他の学科系列よりも 1~2 名程度多くなっている。

②環境系は教諭 4.71 名であるが、実習助手は食品系よりも少ない配置数であった。

- ③食品系は教諭 3.66 名である。実習助手は環境系よりも多い配置数となった。
- ④生活系は教諭 3.09 名で、他の学科よりも 1 名少ない。実習助手も 1 名である。  
ただし、農業科以外の専門教科教員が配置されている場合がある。
- ⑤その他の学科には、経営・経済、農業機械、併合科（普・農、農・家）があった。  
教諭 3.89 名、実習助手 1.99 名であり、農業・園芸系に次いで実習助手が多かった。
- ⑥総合学科は教諭 4.86 名であり、実習助手は 2.07 名である。教諭、実習助手ともに環境系、食品系、生活系よりも多くなっている。

(2) 技術職員、非常勤職員

次に、教育職以外の人員や非正規職員に関する調査結果を考察する。

- ①技術職員は全国で 216 名であった。34 県、393 学科に配置されている。配置学科数で割った平均は 0.55 名であり、2 学科に 1 名程度配置されている。
- ②非正規職員でみると、講師 274 名 (0.73 名)、農務員(作業員)395 名 (0.49 名)、臨時採用の実習助手等 21 名(0.03 名)となっている。

(3) 各項目の学科別構成比

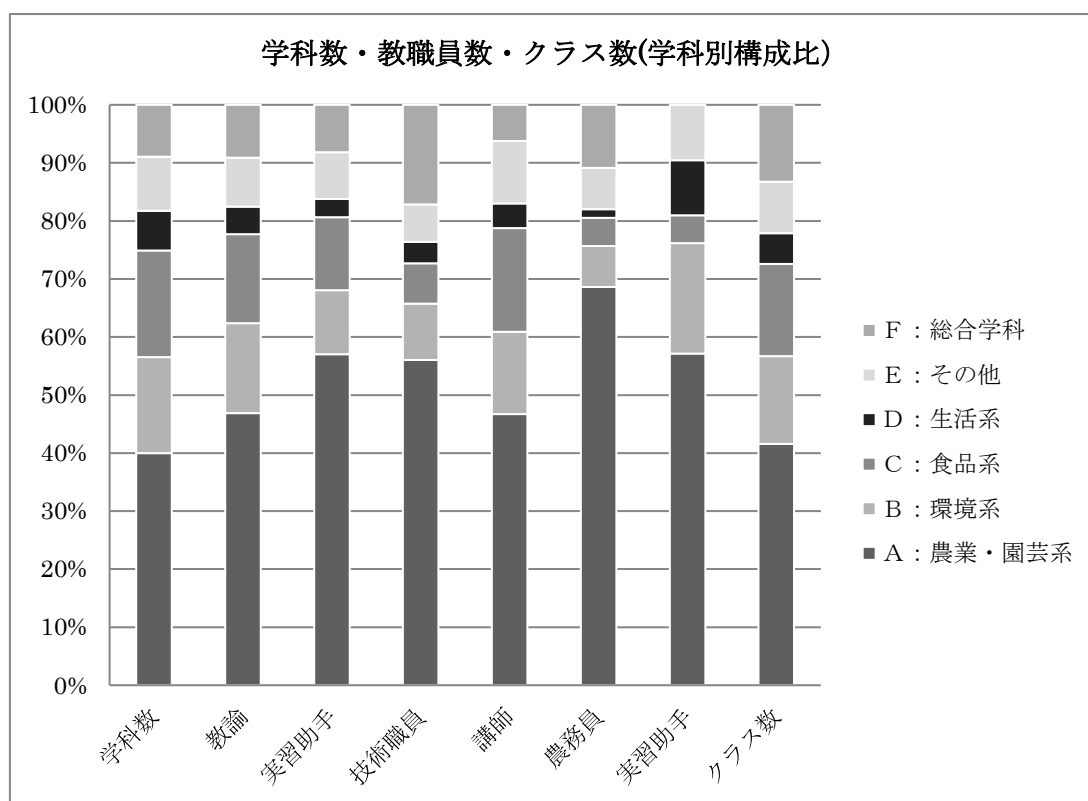


図 1. 学科別構成比 (学科数・教職員数・クラス数) (令和元年度調査)

(4) 項目ごとの学科別構成比率

構成比率をみると、農業・園芸系学科の設置数は約 40% である。これを基準に各項目を比較すると、教諭と講師、クラス数はほぼ一致している。しかし、実習助手では農業・園芸系の構成比率は 57% であり、同様に技術職員(55%)と農務員(69%)となっている。ま

た、技術職員に関しては、総合学科の配置の比率が多くなっている。

#### (5) 意見など

- ・農場管理業務委託有り（北海道）
- ・教諭（実習）が本年度より1人減。時間講師2人で対応するが制約が多い。（静岡県）
- ・農業教員と実習助手の人数不足のため、農業作業のアルバイトとして月に13日が配置されている。（福井県）
- ・農場の管理には、中津川市の職員に行っている（非正規・パート）（岐阜県）
- ・農務員の内訳（管理嘱託員4名、業務嘱託員2名、日々雇用4名）（滋賀県）
- ・欠員 教諭1名 実習助手4名（沖縄県）

#### 4. まとめ

今年で3年目の調査であるが、都道府県の調査を積み重ねた結果、しっかりとしたデータを得られるようになり、さらに細かい分析ができるようになった。過去2年間のアンケート調査により、農業・園芸・畜産などの生産系の学科に多く人員が配置されていることが分かっている。今回も同様の結果であるが、特徴的なことは実習助手の配置数の違いである。農業・園芸系の学科の比率は4割程度であるが、6割の実習助手が配置されていることが分かった。また、農業科教員でまかないきれない場合は行政系職員（技術職員、主事など）や非正規職員（講師、臨時・期限付き採用、再任用・再雇用）が不足分を補っている現状が見られ、技能職員は200名以上にもなっている。

今回のアンケート集計で学科の種類分けに苦慮した。学科の統廃合で複数の分野を持つ一つの学科がある（園芸と食品など）。今回は均等に教員数やクラス数などを分けて集計した。しかし、農業科教員は様々な分野を担当することがあるので、明確に分けることは難しい。もっと、全体的に集計する方式に改善していこうと考えている。

今後、社会情勢の変化や農業に期待されることは多岐にわたっている。GAPやHACCPの取り組みが進む中、生徒の安全を確保し、教材の維持管理や発展的な取り組みを進めるうえで、農業教職員の適正な配置を強く願います。